

譜木之卷

聞書  
右

和装本

ケ5

144

144







大坪本流簪木之卷石

春生軒存藤定易撰

平庭

軒



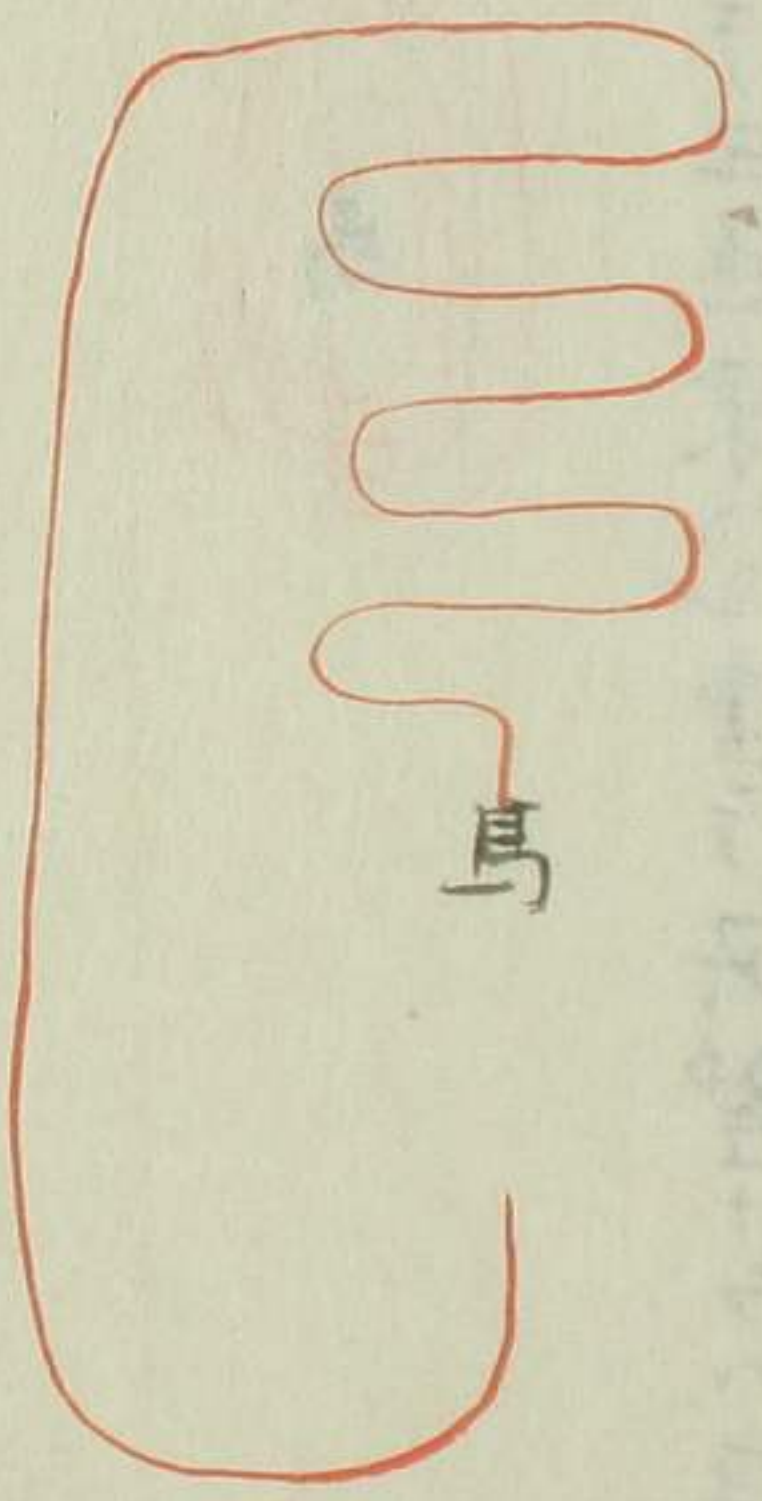
繪ノ如ク馬ヲ静メテ三返乗ヘシ重テ所望ナラハ序波急ノ庭ヲ  
 乗ヘシ 庭東ハ地精シ乗シ地ハ方ニテ圓相ノシ天地ヲ乗ル天ノ攸ハ三ツ  
 陽數ナリ故ニ返乗シ  
 平庭ハ坪内ニテモ何方ニテモ地方ナレ故ニ無取シ乗ナリ馬場トナ  
 カヒテセキ故也地遠ニ返乗廻シ納ル也重テ所望アラハ序波急ノ庭



シ乗ハシ序波急庭ハ荒キ馬シ乗テヨキ庭也 秘ニ云馬ニヨリ  
時宜ニ依テ序波急ノ足次ヲ四返ホト乗テモ可然哉

横庭

御前



横庭ノ庭ニテハ繪ノ如ク乗ハシ口傳

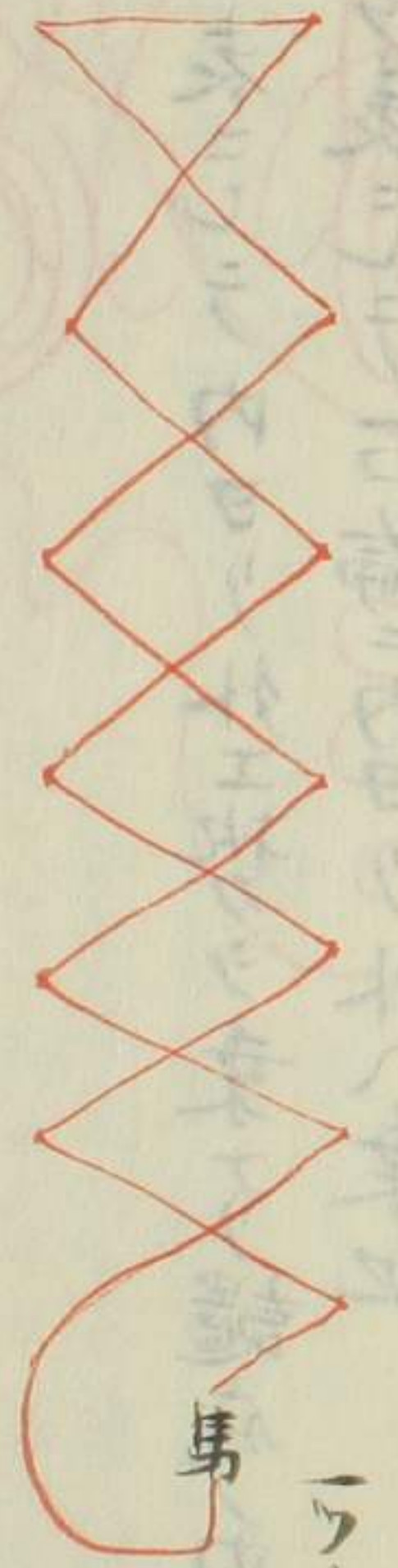
横庭ニテハ法ハ乗ニクキナリニツ足ノ故  
トモクシ形ニ云

横廣庭ニ御前ノ乗出シテハ馬ノ前後ハカク御目ニ掛ル故ニ如此乗テ馬ノ左

右ヲ御目ニカケル也横廣ノ庭ニテハ小翔廻シ輕子ヲ乗ナリ地吹ニ依テ  
心得アルハシ口傳ハ戰場ニテ人数ヲ分ケ扱ニモ其外用ルテアリ

細庭

御前



一ツ本書ヨリ多シ

細庭ニテ繪ノ如ク九折ヲ乗ハシ又九折ノ庭トモ云ナリ口傳  
細長キ庭ニテ九折ニ乗ナリ口傳同断

細キユハスクニ乗リテハ真ナキユニ  
如クハニ乗也扱ヒシタニ庭  
ニ云ナリ

御前



輕子庭



馬ノ朝ニ乗ナリス西貢人ノ時モ乗

人数崩キニ諦ル司

輕子小庭ニテ逸足シ乗也車ノアタテノ如ク早ク乗也口傳曰

陽之庭

御前



陽之庭ノト右ハシメニ返ス丸表ト成ル勢

陽之庭左ツ表ニシテ内ヨリ外エ扱シ乗ナリ謹庭ノ内下驛馬ニ言  
陽ノ庭ハ左ツ表ニシテ右輪ニ内ヨリ外ハ乗也

陰之庭

御前



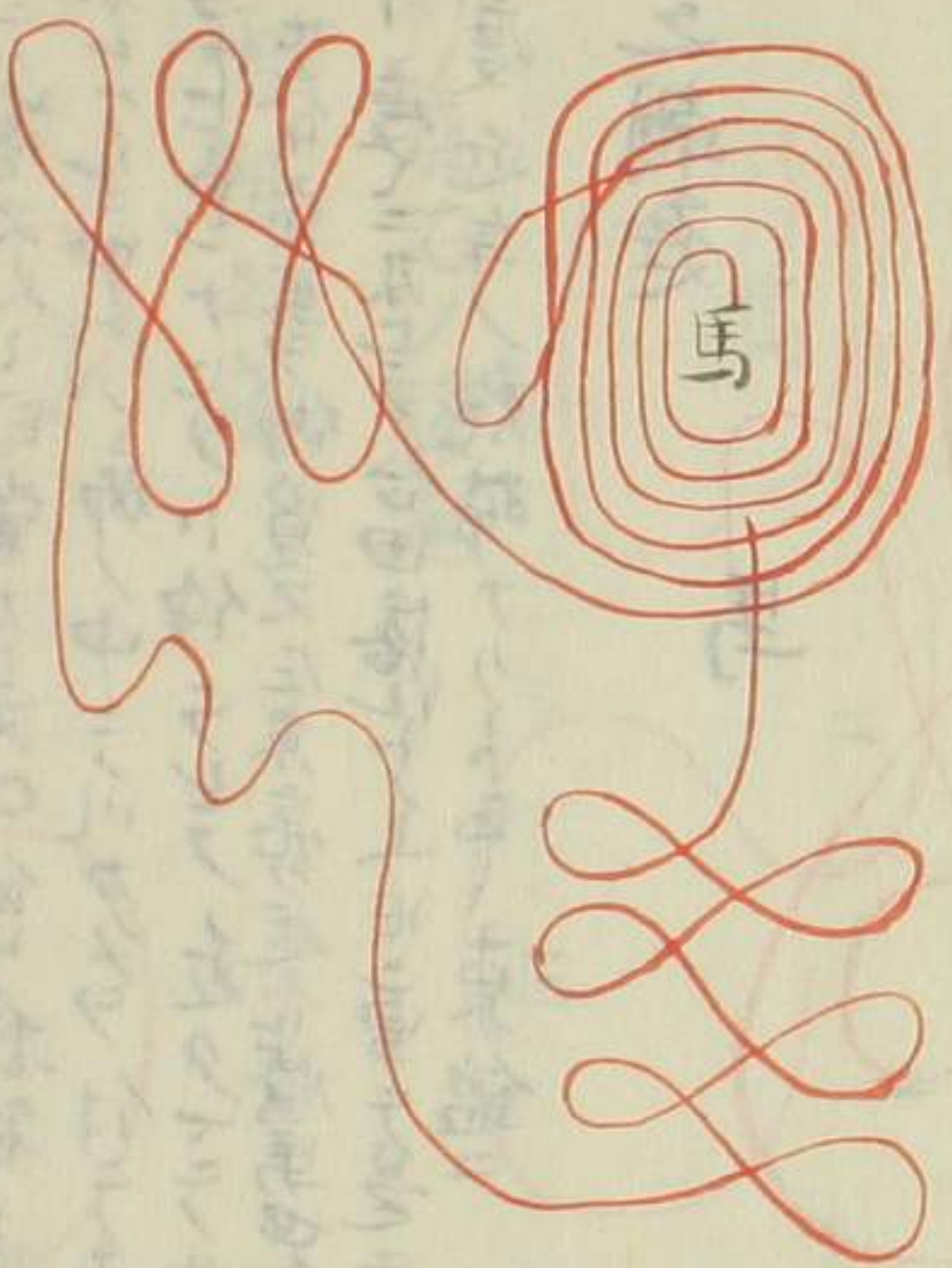
陰之庭右ツ表ニスルナリ

陰之庭右ツ表ニシテ乗ナリ外ヨリ内ハ静メテ乗ハシ謹庭

内上驛ノ馬ニ言

序彼急之庭

御前



序彼急之庭静メテ躍キ左エ返レ右ノ輪ヲ乗輕子駒廻レ駒折九  
折テ謹テ序ニ返スナリ小庭ヲ武藏野ニ乗武藏野ヲ小庭ニ乗  
ニ乗ト云フアリ口傳謹庭ノ内荒キ馬ニ言



序後急ノ庭小庭地形ニ依テ乗ナリ荒キ馬ナト乗ニ古上右ハ小庭  
 ニテ乗タルノ例多シ  
 一條テ又遠心ト高名ノ踏馬アリ奉頼久シテ乗テ  
 餘ニテ有ケルカ敵頼ハ毛落シト云サレト老後如何ト思ヒテカラサレハ乗ケント云ハレ  
 ケレハ此テ乗ニ落ス人目驚カシメ何レ爲縁ノ馬時方東ニ条ニテ雲分ト云  
 アカリ馬ヲ乗レケル中ノ御ノ中ニハカマシ付テ車寄ノ外ハ荒出タリケリ  
 其是ノ跡リヲセシハシナヒリト仰ラレテ近クニ侍タルトシ若門集ニ  
 文永二年十月廿六日貢馬御覽又左京亮遠在膳房也合田即是ヲ乗ル然ルニ月午在右ヲ  
 放チ馬アカルノ度ニ及ヒテ合田落ト云レト重テ是ニ乗ル御前ニサ廻シ乗人向高リアカ  
 ルト三十余度近年ノ龍蹄ナリト云レ東鑑ニ

雪之朝廷

御前

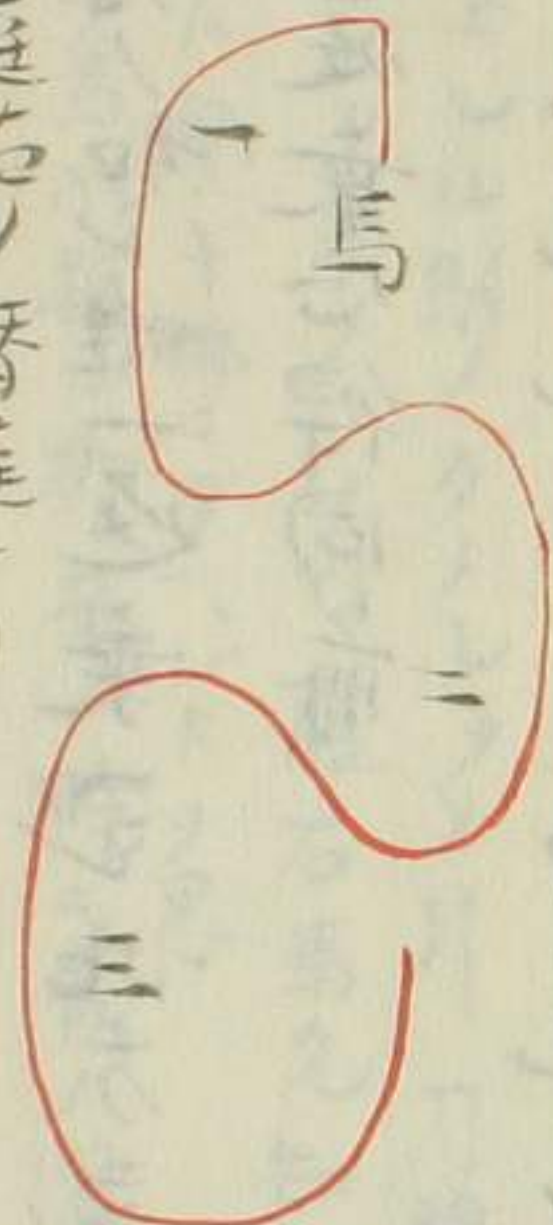


初雪中ノ雪ニリル雪是合

雪朝之庭乗タル跡ヲ見ルヤウ之乗

同雪朝之庭

御前



同雪朝之庭右ノ替庭ナリ

同雪朝之庭

御前

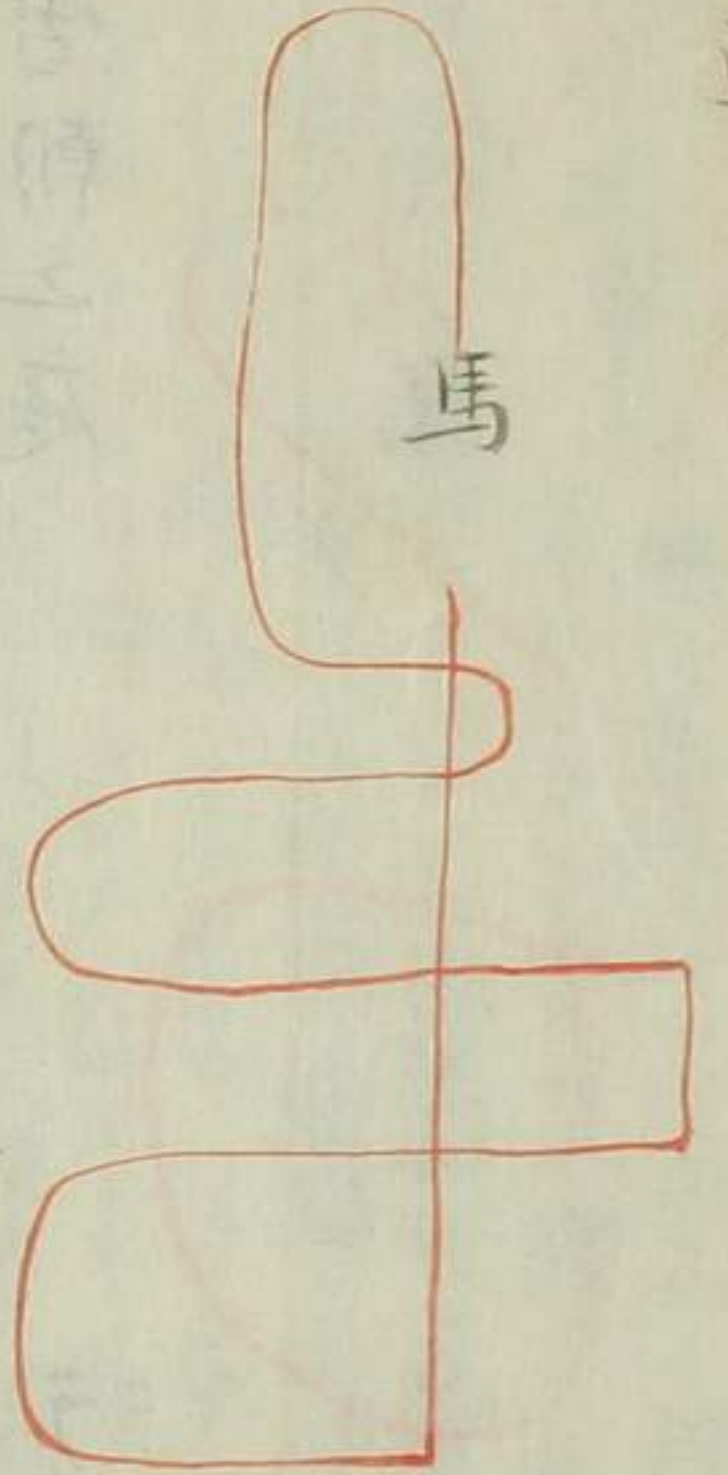


同雪朝替庭ニ是替仲カコチクシ  
 討レコトヲ古実ニシテ各行テ春之  
 ルトキ雪強クアリテ通知レサレ  
 トキ老馬ノ知ヲ用テ大進出レシ  
 義隆ニ草山ノ冬カインノ時雪を  
 山ニツリツモリテ大進出ルコト  
 ナラカルトキイカセニト煩所  
 ニハワフノカ太郎罷出テ中ハ又ニ  
 テ後何カレ申シハ雪アリツモリ  
 テ通知レサルトキハ老馬ヲ用テ  
 出ルモノナリト云レナリト云  
 義隆ノコトニ雪ハ野奈ニツモレ  
 トモ老タル馬ヲ道知ルト仰  
 ラレテタワニ仲カ古実ヲ  
 思召出サレテ老馬ノ知ヲ  
 用ラレタリ



兩朝之庭 雪庭同所

御前



兩ト云字ナリヤクシテ以テ乗リタルモノナリ 貴人前ニテ乗ラサルモノナリ 子ノカラカヤウニ向キワラ 乗ルモノナリ

兩朝之庭繪ノ如シ唯一返乗ニ此方ニテ乗ナカレ向際シ遠カト乗也雪之庭乗心得同前

雪ノ朝雪見花見共一ツ賞既ナレ心得又也雪ノ字シクツモ名取也兩ノ朝モ兩ノ字シクツレタル取也何レモ御前遠々ト可

乘雪泥ナトハ子カケテハ如何心得アルニ

雪ノ朝雪見花見共一ツ賞既ナレ心得又也雪ノ字シクツモ名取也兩ノ朝モ兩ノ字シクツレタル取也何レモ御前遠々ト可  
建曆三年十二月十九日將軍家雪御覽トシテ民部大夫行光カ家ニ入御行光籠馬里奉ル其飛蹄ノ立勢ニ付タリ共雪ヲ分テ今君ニアレハ主ニル馬ノクメシラソリ一將軍御感所為優美ノ由則自筆被深好トシテラハレ内藤右馬允知親シ以テ一主シレトリケル馬ノ馬シ分ハ賢キ跡ニカヘレトソ思

白河院鳥羽殿ニ御在ノ時ニ夜ノ深雪ナリ夜半ノ頃備後守季道御前ニ臥ケルシ召ニ雪ノ浅深ソトセ給フ後夜ノ頃カナト仰有リ三人音ノ仕ケレハ唯見テ參レト有ケト淡路守盛長殿下ノ御使トシテ參上以テ升大書室メテ御覽仰ラレ只今マイリ值ト申ケレト尤モ思ヒルトテ騾カセ玉ヒテ殿上人御隨身可足者ト召セテト仰有テ御覽カセケル程ニ夜ニシテニ殿下里ノ移レ馬ニ致時ニ口シサセテ參リ玉ヒケレ頓テ出御有テ馬場殿ニ御幸ヨリ殿下ノ馬ノ雪降ウミテクホシタルニツマツキタルヲ還御後ニ面白カリシナト仰有レト也有難キ一善園集ニ見ハタリ

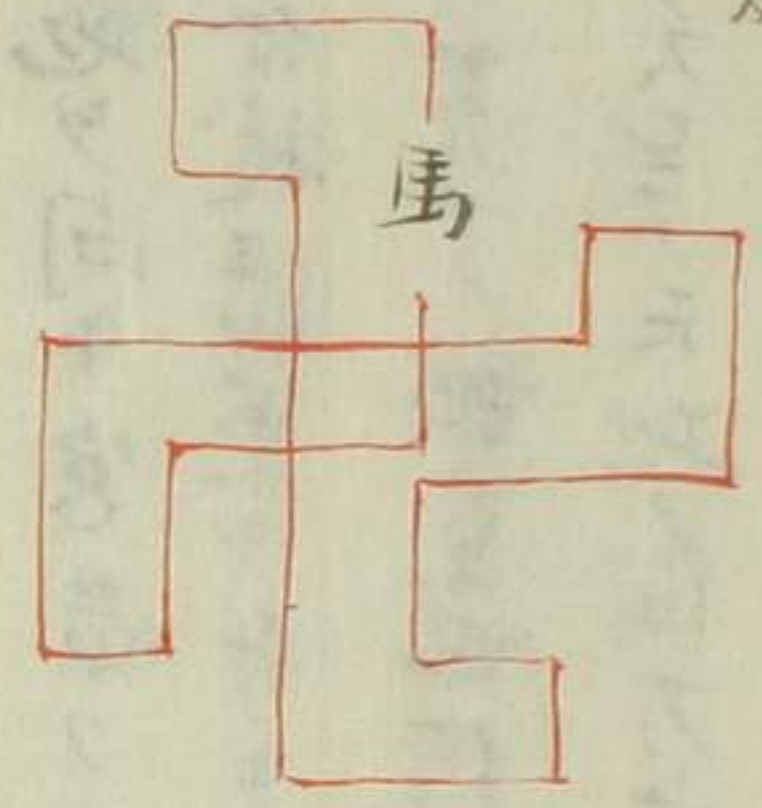
古昔ハ天皇將軍殿上人モ雪ノ晴間ニハ雪見トテ馬ニ乗テ野ニモ出赤庭前ノ雪ナト御覽有レト也雪ノ庭ハ幸ノトト見ハタリ







所始之庭

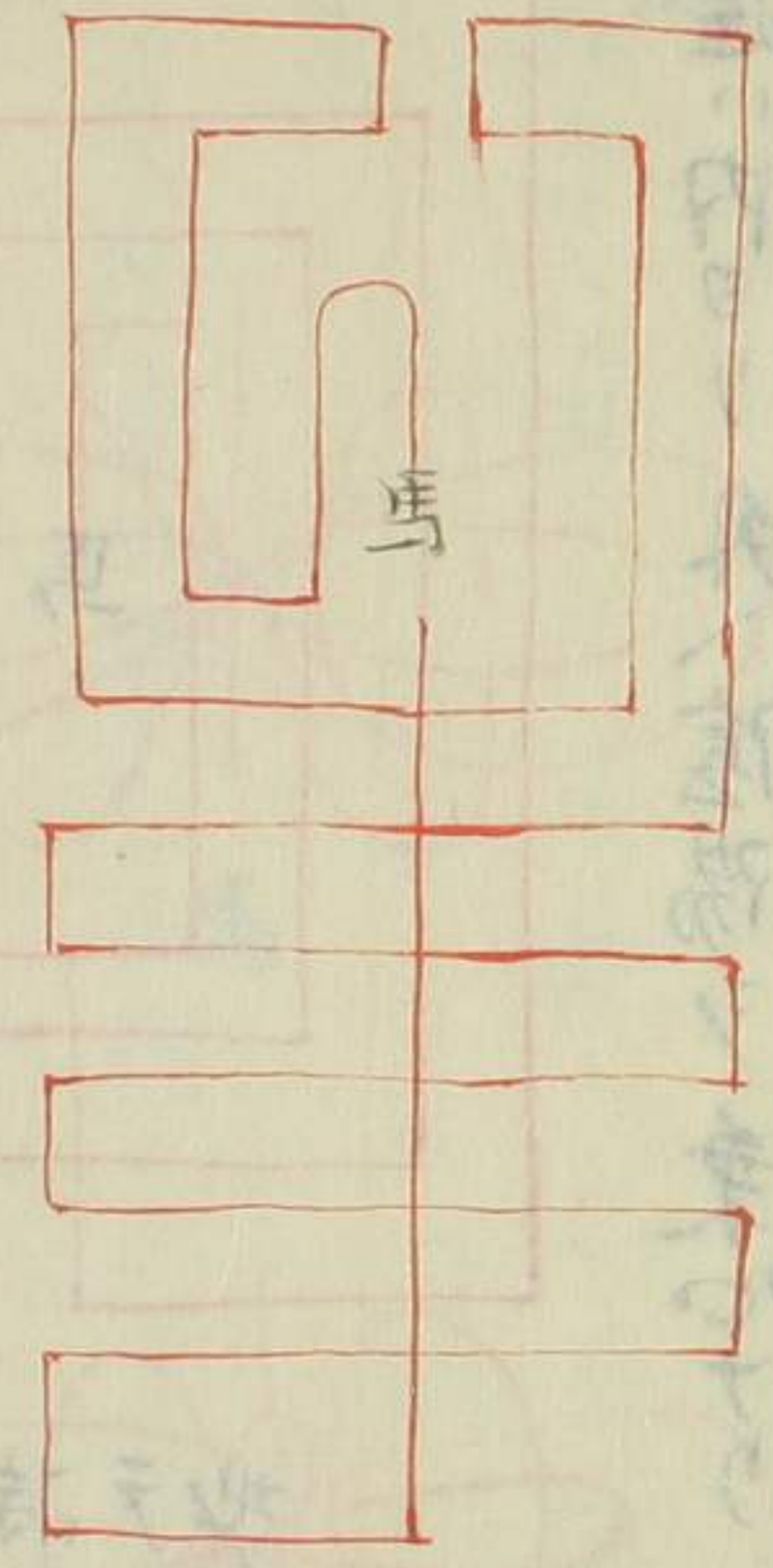


御前

所始之庭 園始之庭ヲ乗テ後繪ノ如ク乗ヘシト傳  
所始ノ庭ハ馬場始其外ニモ乗ナリ五行ノ成ニシテ万物生々ノ形ナリ  
四方合テ八ノ形 ナニ至リラニ生ズ 園出来テ所初メ有リ

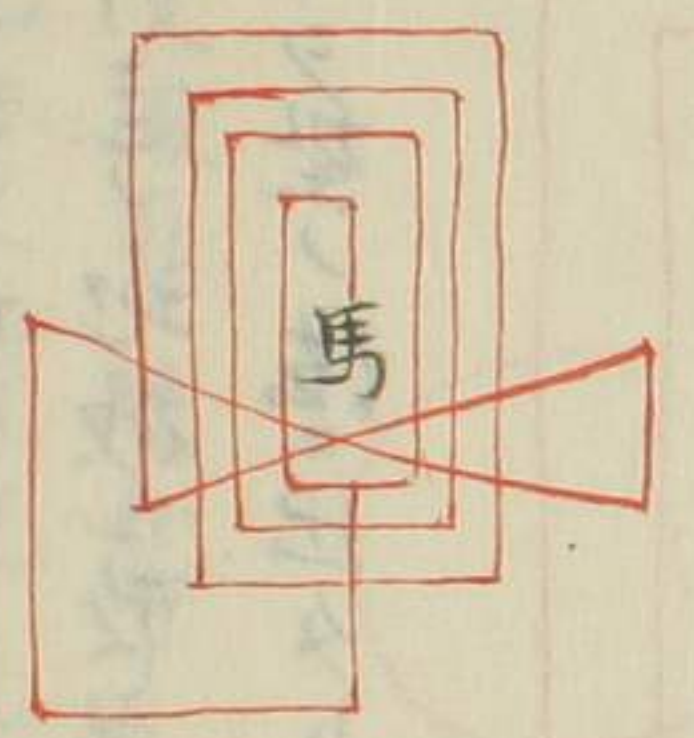
陰陽合射ニテカキノ成ニ成セ也 園出来テ取出来ル庭取  
出来テカキト云モノ有リ成リテ陰陽合射ノ庭也

庭始之庭



御前

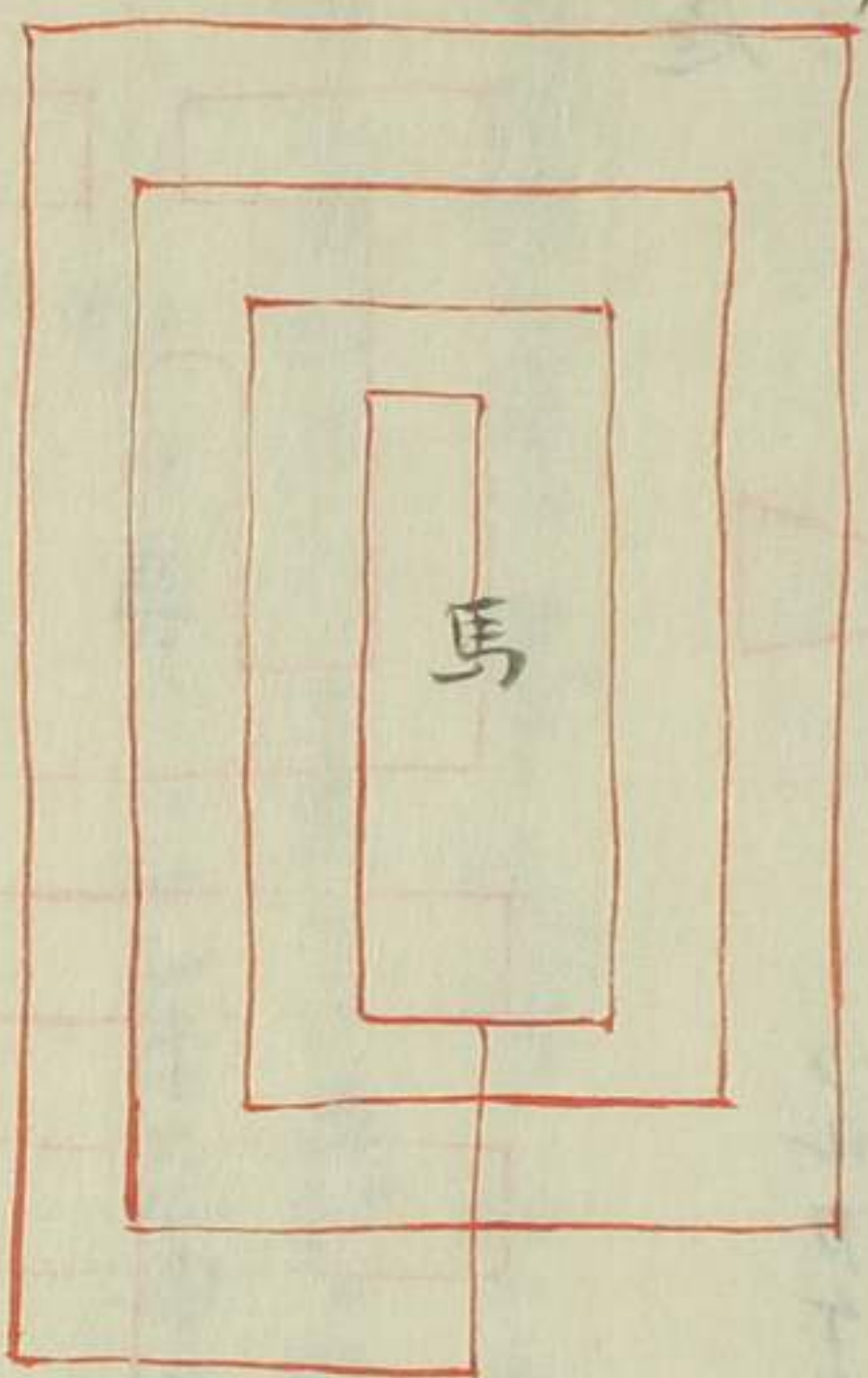
移徒之庭



ツルカケノ庭ニ云ワルノ形シヒコケ  
タルカウ成ルニニ加ルナリ 佐木  
ノ家ニテ是ヲ乗リ 登テワル成  
ノ庭ト云



庭始ノ庭ハ鏡形ナリ諸々ノ重宝ヲ藏ニ入テモカキナケレト  
 用ツカス馬場始ノ時ハ其国始ニ始庭始ヲ乗ヘシ新ノ馬場ニ  
 共ニ細竹ニテ地破ニ成シ付テ乗ナリカキ法アリ奈止  
 アリ馬場ヲ築ノ法ニ出タリ 移徒ノ庭ハ移徒ノ時乗ナリ  
 書及庭



留礼ノ庭ト云ヤトハ書ヲ  
 持ツテ一トスルナリ書  
 テラメトウトモ云  
 地ノ四角ノ形シ乗ナリ

武田家ニテ鷹取ト云

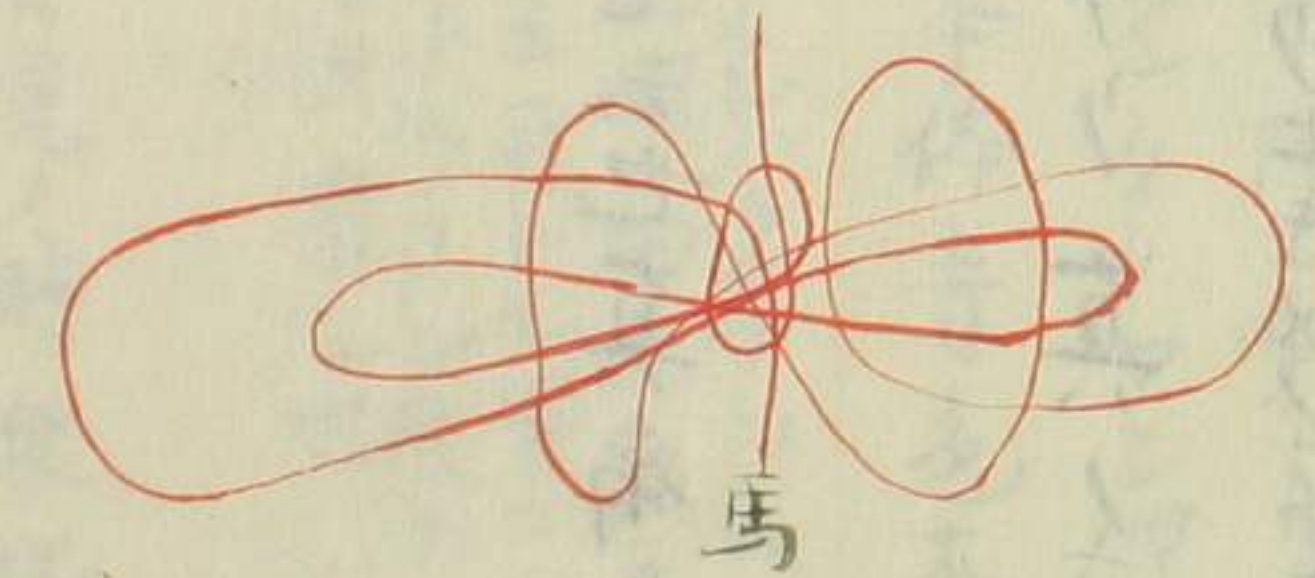
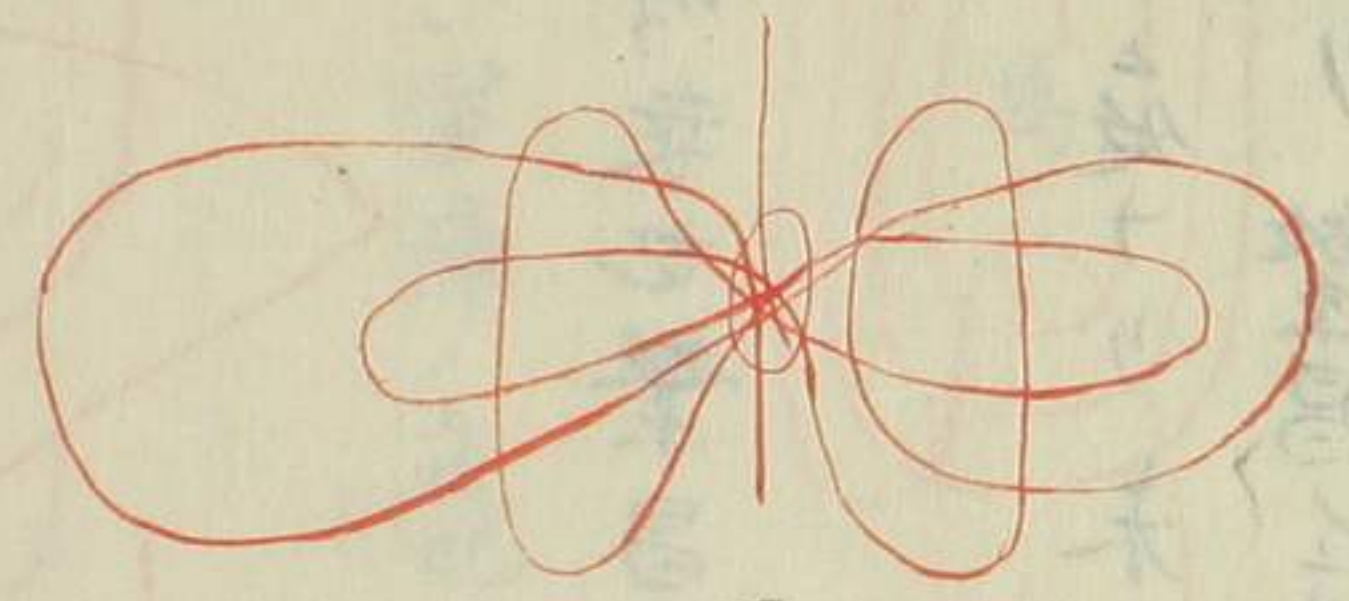
書及ノ庭ハ内ヨリ外ノ陰陽シ乗心ナリ 説言ニモ乗也

御前

相結之庭

御前

御前



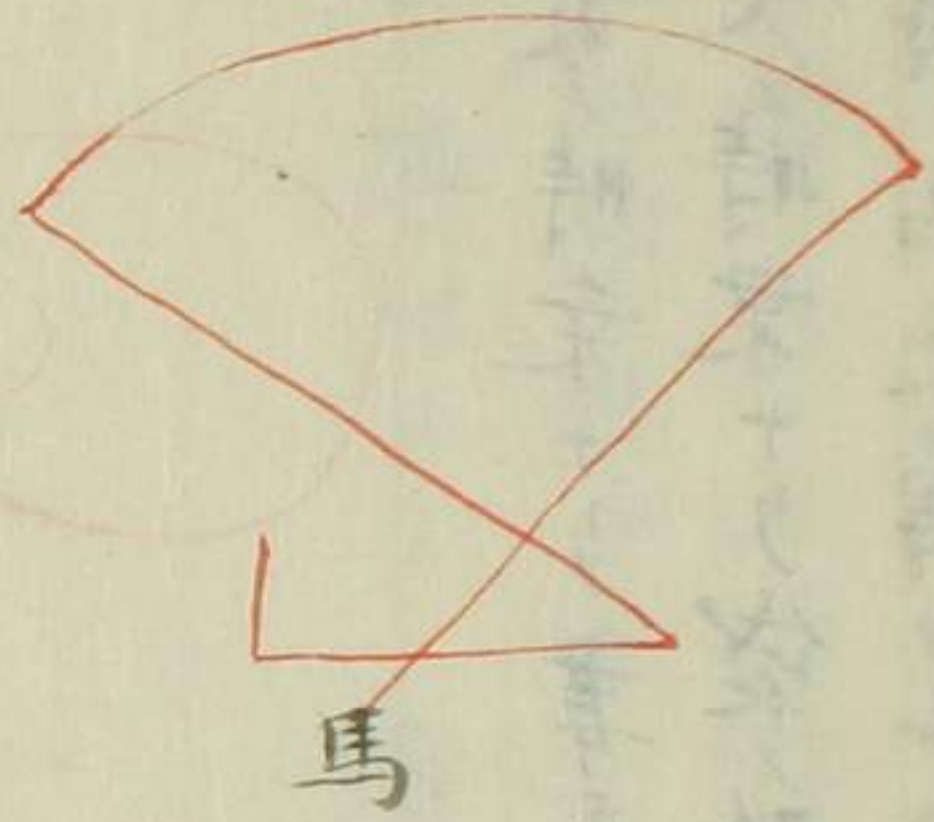
智入ニウト入ノトキ  
 用エ古ノ国ツハタ  
 テ、智礼有ニ也  
 書及相結テ庭  
 ヲ乗ナリ

相結之庭智入板取ノ時乗ナリ書及之庭凡吉口傳  
 相結ノ庭ハ智礼智入ノ時乗ナリ袋ノ形ナリ 敬慕ノ心ナリ  
 御西人御座ノ時ノ品々心得アルヘシ



扇之庭

御前



扇之庭祝言ノ時乘也繁昌之庭トモ云也真角之庭阜之庭  
乘ヤウアル也

扇ノ庭ハ祝言ノ庭ナリ未廣ノ心ナリ真ノ庭ハ蠶目ノ卷ニ有  
兩翼ノ卷ニ出タリ繁昌ノ庭トモ云ナリヒキメノトキ乘ナリ

御前

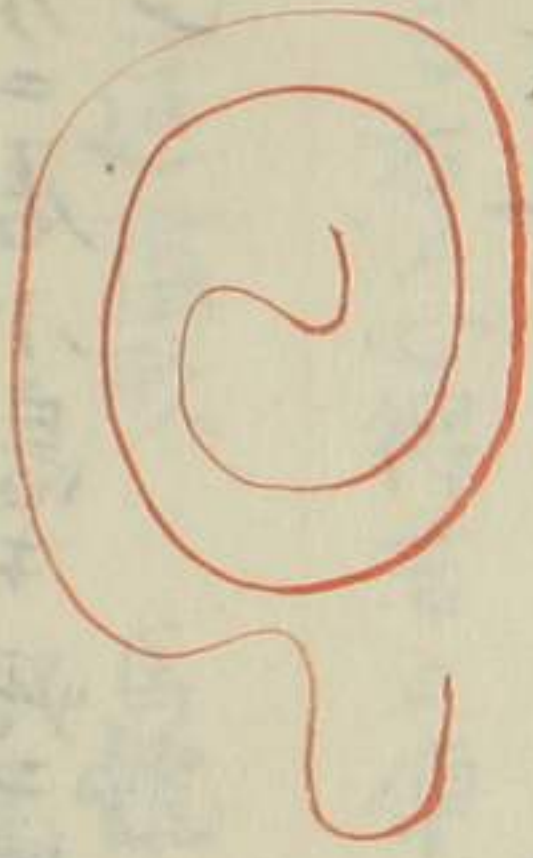


軍陣ニ乘ナリ軍陣東方  
クニタリヤシヤ  
本侘青色木葉園形

圓形之庭繪ノ如シ軍陣ノ庭也

同實見之庭

首



冬也冬ハウチワセニ扇ナリ  
團ハ鹿嶋ノ神佛法ニテ東方クニタ  
リ明王司トル軍ニ利アリト云サ  
カホトウタン取ナリイクサ神ノ  
神ホト乗ル也

實見ノ時乘也思テラ  
抜ナリ

此時南天ノ策ヲサス也陽ニテ駿  
ツケウリチヤセシ發ニ結ニシコウ  
カ首ノ取ナリ陰ニ返スナリ



實見之庭繪ノ如シ此方ヨリ目高キ人ノ首ヲ取テハ髮ノ  
ケツリニ方ニ居小高キ此ニ置テ 右ノ如ク乗ヘシ口傳  
軍礼ノ如シ

神前之庭

四象

天地エシテ露ヲ結ノ庭敷ナリ神前ハ  
左ハ返ス手廻ノウエ右ニ取也

宮

馬

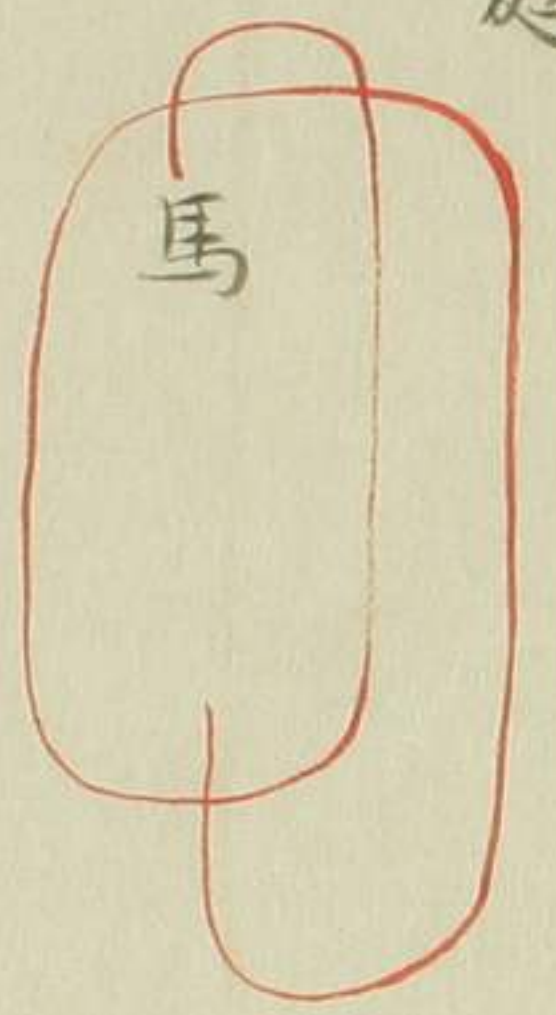


神前ノ庭ニ返左天地人ニ方ノ取也

佛前之庭

佛前

馬



神前之庭右ニ返シ佛殿之庭右ニ返ナリ鞍ハ上敷ヲ去テ手廻ハ髮ニ  
懸ヘシ扱乗ト手廻ノ露ヲ右ニ取鏡ハ其ニ方シ外シ水尾  
金ヲ跟ニテ腕ト押ヘ致シテ繪ノ如ク乗ヘシ常其前ヲ  
乗通ル時モ右ノ心得吉口傳

佛前右ニ返陰取

馬體

ヲ上テ下ニ手廻ヲ置ナリ鏡シ外シ  
水尾人ニ置ハ水清々ノ心ナリ



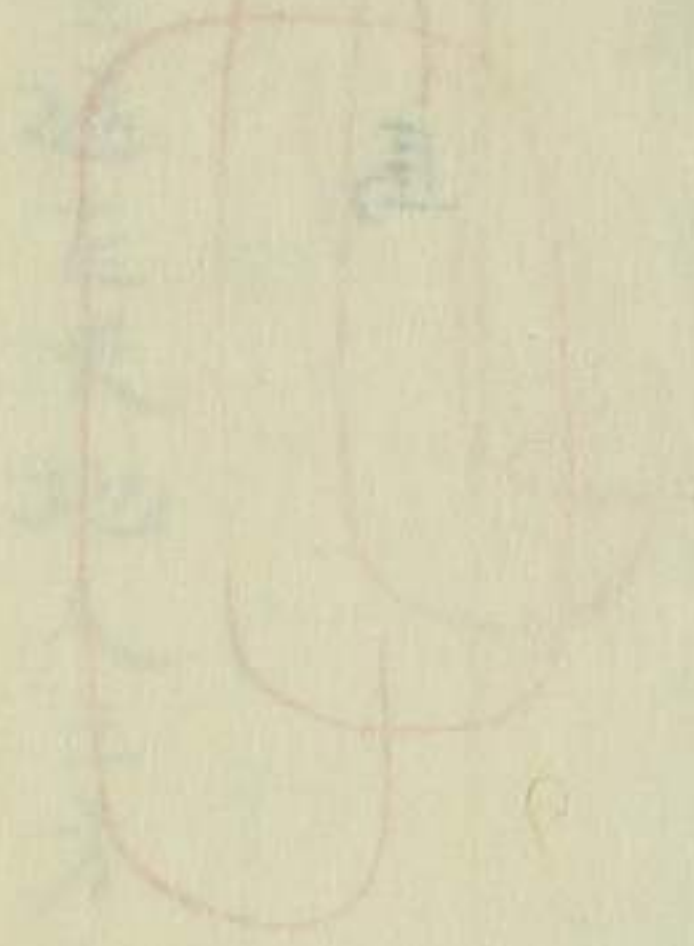
Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.

Handwritten text line.



Handwritten text line.

The left page of the notebook is mostly blank, with some very faint, illegible markings or bleed-through from the reverse side.



